

東京都議会 第四回 定例会 樋口高顕議員 一般質問

1 水辺（まちづくり、防災船着場、河川の賑わい、常盤橋）

私の地元にも神田川、日本橋川、外濠といった貴重な水辺資源がありますが、昨年第四回定例会では、水辺を活かしたまちづくりの必要性について、知事からも前向きな答弁を頂きました。

たとえば、平成15年に策定された（地域の特性を活かす大変良い制度であります）「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」における「街区再編まちづくり制度」は、水辺など、地域の特性、実情に合わせて柔軟に対応することも可能と聞いています。ぜひ今後も、都の前向きな姿勢のもとで、水辺に顔を向けた民間開発を政策誘導として促して頂きたいと思います。

Q1. そこで開発の機会を捉えて、例えば流水の占める面積・河積を侵さず引き込む形での船着場、船溜まり、揚場や、デッキの整備など水辺を活かしたまちづくりを積極的に誘導すべきと考えますが、都の見解を伺います。（都市整備局）

A1.

・都市の生活にゆとりや潤いを創出する貴重な資源として、水辺をまちづくりの中で積極的に生かしていくことは重要。

・都は、民間の創意工夫を生かす都市再生特別地区を活用したプロジェクトにより、芝浦運河沿いなどで、水上テラスの設置等、質の高い親水空間を整備。

・さらに、再開発等促進区など容積緩和を伴う通常の開発手法により、隅田川や神田川等の水辺を生かした取組を推進するため、本年三月、その開発手法に係る運用基準などを改定し、容積緩和の対象を拡大。

・これらの仕組みにより、民間開発の機会を捉え、関係機関と連携しながら、船着場や川沿いなどの歩行者ネットワーク、水辺に開かれたにぎわい施設等の整備を促進し魅力や潤いのある水辺空間を創出。

これら民間事業者により新しく作られる船着場とともに、既存の防災船着場の活用が大切であります。

Q2. 都の管理下にある防災船着場においては一般の利用に向け、さらに積極的に開放していくべきであります。都の見解を伺います。（建設局河川部）

A2.

・災害時の、帰宅困難者や緊急物資の輸送等に備え整備した防災船着場を、平常時においても有効に活用し、舟運の活性化を図ることは重要。

・このため、観光施設や後背地の状況、利用者のニーズ等を踏まえ、平常時に観光船など一般船舶に開放し、多くの方々に利用していただいている。

・今月には、地元の理解が得られた、箱崎町においても、新たに開放を行う。

・より一層、防災船着場の一般開放を進め、舟運を活かした水辺空間の魅力向上を図っていく。

なお、都の管理下にある防災船着場の利用申請は、現状の電話・FAX から、将来的にはオンデマンドな活用にも対応しうる、システム化が必要と考えます。港湾と河川で連携するなど、使いたいときに使える船着場、に向けて利用申請のありかたを検討するよう、要望いたします。

あわせて防災船着場の整備に当たっては観光や日常交通、賑わいの観点も入れるよう求めます。

さて水辺空間の活性化には河川敷地の活用も極めて重要であります。河川沿いでは水辺のにぎわいに資する民間開発の計画があるほか、河川に台船を浮かべ、川沿いのテラスと一体となり、音楽やアートイベントを行なうなど、民間団体からは発想豊かな提案が出されています。

私は、河川管理・治水や安全性の確保と賑わいは必ずしも対立するわけではないと考えます。これからは河川管理においても、エリアマネジメントのように、地域の関係者と、ともに連携し、にぎわいを創り、河川の魅力を再び高めていく必要があるのではないのでしょうか。

Q3. そこで河川管理における治水など従来の機能とともに、観光や日常交通や賑わいに資するような視点を入れた民間事業者や地域と連携し、特例占用などを活かし、河川のにぎわい創出に積極的に取り組むべきと考えますが、都の見解を伺います。(建設局河川部)

A3.

・水辺の魅力さをさらに高めるためには、治水機能などを確保した上で、河川の特性を踏まえ、周辺地域と一体となったにぎわいの創出が重要。

・これまで日本橋川などにおいて、規制緩和により水辺で飲食が楽しめるかわてらすが設置されるなど、河川敷地を利用。

・また、隅田川沿いの両国において、水辺とまちが結びつくよう、都が進めるスーパー堤防の整備や防災船着場の増設と併せ、民間によるホテルなどを整備。

・今後とも、川沿いの民間開発の機会を捉え、地域や民間とより一層連携を図り、特例占用を活用し、まちづくりと一体となって、多くの都民や観光客が訪れる魅力ある水辺空間を創出。

さて、水辺空間の活性化には今まで申し上げてきた機能面に加えて、景観も大切な要素であります。先日 9 月 2 日の都市計画審議会では首都高地下化の計画が承認されましたが、工事の実施に伴い、常盤橋、の保存が注目されています。日本橋川には、江戸時代からの石積みの護岸や、昭和前期に作られた川に顔を向けた建物、そして常盤橋など近代のアーチ橋、

といった、水面から眺めやる美しい空間があります。

Q4. そこで常盤橋の現状を維持するような地下工事の可能性について、土木技術や費用面での試算などもしていくべきと考えます。現在の検討状況を伺います。

(都市整備局)

A4.

- ・ 首都高日本橋区間に存する常盤橋は、2連アーチの震災復興橋りょうであり、千代田区景観まちづくり重要物件に指定。
- ・ この橋は、先日の都市計画審議会で了承された首都高地下化の工事の影響範囲にあり、その取扱いに配慮が必要。
- ・ 区は、常盤橋が周辺の日本銀行等とともに歴史的な景観を形成していることから、その保存に向けた検討を要望。
- ・ このため、現在、首都高速道路株株式会社を中心となり日本橋川の安全性等を確保しつつ、2連アーチの構造を残す方向で検討しており、都も関係機関との調整などを行っている。
- ・ 工事の具体化に合わせて検討が深まるよう、引き続き取り組んでいく。

これからの日本の首都・東京には、「大都市の総合力」が求められているのだと思います。豊かな自然をも取り込んだ都市の風格、そして歴史を背景とした厚みのある文化を備え、地域社会・共生社会、その下で、多彩な活動が生き活きと展開される、訪れる人々に感動を与える、そういった首都・東京であります。

その「東京の総合力」を最大限に発揮できますよう、今後も力を尽くしていくことを申し上げます。私の一般質問を終えさせていただきます。